

ボランチで出場した菊地。
明大のロングボールを自身
の最大の武器であるヘディ
ングでことごとく跳ね返し
攻撃の芽を摘んだ
(撮影・野澤俊介)

KOMAZAWA × MEIJI

駒澤大学3-0明治大学

気持ちの勝利で好発進！ 次節も勢いそのままに！

JR 東日本カップ 2005 第10回関東大学サッカーリーグ(前期) 1部リーグ 第1節

優勝へ向けてまず一勝
ユニフォームとともに気持ちも
新たにリーグ初戦を迎えた駒大は、
この試合2部から上がったきた明
大に対し、駒大らしいサッカーを披
露した。

「スペースが広く空いていたの
でどんどん仕掛けようと思ってい
た」と宮崎が言うように、序盤から
両サイドの鈴木と宮崎の激しいア
ップダウンで幾度とチャンスを生
出。公式戦初出場の赤尾も高い位置
からのプレスでボール奪取を狙う。
そして、35分に塚本が倒されゴー
ル前でFKを得る。キッカーは宮
崎。「練習していたし自信があっ
た。」と言うそのボールは相手デ
フェンスの壁を越えゴールに吸い
込まれた。

試合の主導権を握る駒大の勢い
は後半に入っても衰えず。「明治の
ラインが浅かったので裏を狙った」
(秋田監督) 動きで好機をうかが
う。48分、原のロングスローに菊
地がヘディング。ゴール前に詰めて
いた宮崎が押し込み、この試合2得
点目をあげる。その後もFWの活躍
なパスワークでチャンスを創り、6
0分赤嶺がパスカットしたボール
を原がダイレクトに決め、試合を決
定付けた。後半、明大にやや押し込
まれる時間帯もあったが、駒大のD
F陣は最後まで桑原を中心に安定
したプレーで決定的なピンチを招
くことはほとんどなかった。試合前
に、牧野が「キックがうまい」と注
意を払っていた小川にも仕事をさ
せなかったことは大きい。小林亮
(現・柏)が抜け懸念されていた右
SBも塚本の奮闘で、そんな心配は
どこ吹く風。ヘディングに絶対的な
自信を持つ菊地の起用も生き、完璧
な守備を見せた。

開幕戦に弱く、ここ数年白星を差
げられていなかったが、この試合駒
大らしいサッカーで明大を粉砕。幸
先の良いスタートを切った。第2節
は2部の覇者、法大。この勢いのま
まりリーグ2連覇といきたいものだ。